

～国内消費者になじみのないスケトウダラの販売促進～ 北海道漁業協同組合連合会（北海道札幌市）

目詰まりの現状

北海道で水揚げされるスケトウダラは、韓国の堅調な消費に支えられてきたが、震災後は輸出皆無の状態にまでなった。

一方国内消費者にとっては、鮮度の良い生鮮スケトウダラはなじみがなく消費は低調である。

プロジェクトの概要

冬場の一定期間、釣り等で漁獲される鮮度の良好なスケトウダラについて、

- ・ 国内量販店で、良質のスケトウダラの販売を促進する。
- ・ 消費者視点に立った、調理提案を実施する。
- ・ 販売先から特に要望があるワンフローズン製品を開発する。
- ・ 依存していた韓国以外の需要を発掘する。

取組による成果

- ・ 鍋物商材としての生鮮スケトウダラが認知され、事業以外でもマーケットインの増加を確認。
- ・ 時化が多い冬季が漁獲時期であり、高鮮度品に限定した安定供給は難しく、新しいチャネルの開拓を検討中

プロジェクトフロー

北海道産スケトウダラの消費

震災後の消費喪失分

韓国輸出(チゲ鍋向け等)

中国輸出(韓国向加工品)

国内加工・消費
(すり身など)

販売先の確保

漁獲時期における販売促進

消費者への調理提案

新たな商品開発

国外需要の発掘

販路拡大

国内消費の拡大
(高鮮度・新商品)

中国等輸出拡大
(韓国向加工品)

国内加工・消費
(すり身など)

新製品開発

水揚げ風景



スケトウダラ

出荷風景



(平成26年12月現在)